

平成 31 年度

社会福祉法人海士町社会福祉協議会 事業計画

「一人はみんなのために みんなは一つの願いのために」

～私たちが まずは受け止めます～

平成 31 年度 社会福祉法人海士町社会福祉協議会 事業計画

テーマ 「一人はみんなのために みんなは一つの願いのために」

～私たちが まずは受け止めます～

【総合方針】

海士町の取り巻く環境は他地域の例にもれず、家族、個人ニーズが多様化し、家族機能の低下や虐待、経済的困窮など制度やサービスの枠組みだけでは十分に対応できない制度の狭間の問題や複合的で深刻な課題が顕在化してきている。

また、国は「地域共生社会」の実現を福祉制度改革の基本コンセプトとしており、昨年4月の施行の改正社会福祉法では、市町村による包括的な支援体制の整備などを規定された。これは我々が取り組んできた「島まるごと支えあいの福祉」と同じ方向性である。

このことから「まずは受け止めること」が海士町社会福祉協議会の地域から求められる役割であると認識し、近年よく言われる「そんなことまで社協なの？」という言葉の前向き捉えて、住民から「何かあれば社協に相談すればいい」と思われる機関を目指す。

近年多発する災害や感染症などの対策は海士町行政との連携の強化を図る。福祉避難所としてハード面の整備はもとより、災害が発生した場合の災害ボランティアセンター設置構想や島前3町村との連携の持ち方なども検討する。

組織としては「穏やかな前向き」の姿勢で、トップダウンとボトムアップのバランスを重視し、組織全体の信頼関係を強化する。迷うことを大切にし、職員間でもいったん受け止めることを意識する。職員全員で事業や活動を行い職員全体研修ではワークショップなどを活用しながら、全員で語り、学ぶ場を設ける。全ての活動や事業でKPT等の手法を使った振り返りを必ず行いブラッシュアップを図る。

暮らしを見つめることは地域や文化や伝燈（でんとう）を守ることに繋がっている。昨年度から行っている「夢を叶える介護」は、暮らしを見つめ、夢を叶えることを軸足としてきた。そのコンセプトは踏襲しながらも、今年度は個々の小さな願いも叶えるようにバージョンアップはかる。ただ事業をこなすだけの「ねばならない」意識から、個々に興味、関心、好奇心を持ちアセスメントし本質を見極めることが重要であることを意識する。

年度繰越しとなった浴室改修はデイサービスを中心とした拠点の再構築である。心地の良い居場所を目指し、ゼロベースで利用者、職員全員で作らあげる。また、心地の良い居場所づくりは施設内にとどまらず、生きがいのある毎日が過ごせるよう島全体に構築する。

人口減少は支え手の不足だけでなく、サービス利用者も減少している。行政や他法人と協議を重ねながら持続可能なサービスの再構築を検討する。平成32年3月で終了する第3期地域福祉活動計画「生き生きと死ねる島」を評価し、第4期地域福祉活動計画を地域福祉活動計画と一体的に策定する。

【地域福祉】

○「困った」を見逃さない地域づくり

- ・地域に積極的に出かけ実態把握に努めるとともに、気になるケースは関係機関と連携し早期支援につなげる
- ・個別のケースから見えた課題を地域住民、関係機関と協働し解決に向けた活動を支援する
- ・海士町版の地域アセスメントシートを作成し、包摂会議等で情報の共有を図る
- ・法人後見受人体制づくりの準備を行う

○住民の福祉観のさらなる醸成

- ・成長段階にあわせた福祉学習を他機関と連携し島全体で展開する
- ・こぞってやサロン等で地域の支えあい活動や介護予防等の理解を深める
- ・第3期地域福祉活動計画の評価を行い地域福祉活動のあり方と今後の展望を住民や行政、関係機関と共に考え第4期地域福祉活動計画を策定する

【在宅福祉（ヘルパー・デイサービス・生活支援ハウス）】

○訪問介護（ヘルパー事業）

- ・利用者の希望に寄り添える支援を行うための職員体制を整え、本人の意見を取り入れながら、本人が望む生活が送れるように介護技術は勿論のこと接遇やマナーなどの向上を図る
- ・職員同士のコミュニケーションを深めると同時に、ヘルパー会等を定期的で開催し、職員間の連携強化に努める

○通所介護（デイサービス事業）

- ・利用者や家族の願いを受けとめながら、個々の思いに応じたサービスの提供をみんなで考え実施する
- ・利用者家族との情報交換を密にし、自宅での状況やサービス利用中の状況の共有を図る
- ・地域の情報を得ながら、ボランティアを募集しケアの質を高める
- ・他機関との連携し、より良いケアの実践を図る
- ・利用者の思いを取り入れながら居心地のよい空間づくりに努める
- ・通所介護を運営するための必要書類を整理し、プランの評価や検討をチーム全体で行う。また、ケアプランと連動したプログラムを実施、評価する

○生活支援ハウス

- ・生き生きと生活できるようK（家事）Y（役割）S（趣味）T（太陽）を意識した行事を行う
- ・旬のものを収穫し、伝統的な料理を作り、みんなで食べる
- ・地域の行事や季節の活動（畑、釣り等）を行うために、積極的に外出する
- ・カレンダーを2~3ヶ月分作成し、先を見据えた予定を立て、生きる目標（希望・楽しみ）を見出す

【居宅介護支援】

○介護保険制度に基づいた支援を行なう

- ・ 実地指導に基づきコンプライアンスの充実を図る
- ・ 個人情報へ留意しながら、まめネット等のツールを活用し関係機関との情報共有を図る
- ・ 地域ケア会議や研修会にて困難事例の解決むけ社会資源を活用しながらケースの検討や情報共有を図り、ひいては社協全体での共有を目指す

○介護支援専門員に求められる専門性を構築

- ・ 事業所内でケアプラン点検を適宜行い、コンプライアンスに基づいた業務を充実及び専門性の構築につなげる
- ・ 事例をもとに対象の理解や生活支援の方法を学習し、モニタリング及びアセスメントの視点を深める。また、事業所内で開催される研修には積極的に参加し、視野を広げることで柔軟な対応ができる姿勢や専門性を高めていく

○地域住民が安心できる総合相談を行う

- ・ 私たちがまずは受け止める姿勢で業務をおこなう
- ・ 住民や帰省者など幅広い相談業務を行えるように、IP 告知などで周知し、相談体制を整備する
- ・ 民生委員やボランティア等と連携し、相談対応を行う

【公益事業（福祉用具貸与）】

○利用者の状態や環境のアセスメント徹底し、ニーズに添った用具を提供する

○福祉用具の組み立て方を職員で共有し、迅速な搬入搬出を図る

【保健センター】

○施設の継続を目指し、施設管理を徹底し、安全・安心・衛生的な運営を図る

○福祉避難所として円滑な業務を行えるように行政機関と連携し災害時の対応に努める

【福祉従事者雇用促進拠点施設（チェダッテ）】

○地域の福祉推進拠点、福祉の学びや交流として地域に根ざした活動を行う

○持続可能な拠点施設を目指し、行政や法人と連携を取りながら運営を行う

○海士町の福祉の発信拠点として、視察の受け入れや島内外に情報発信を行う

